

るーもクリアファイル

和歌山南ロータリークラブ様からのご寄付により、
るーものクリアファイルを作成させていただきました。
るーもの活動をより多くの皆様に
知っていただけるよう活用させていただきます。



るーもクリアファイル

ご支援のお願い

子どもシェルターへの公費援助はまだ不十分で、財政基盤はとて脆弱です。
ぜひ、こどもたちのために、正会員、賛助会員、法人賛助会員として、私たちの取り組みを支えてください。

衣類と生活用品のご寄付を募集しております。

新品のみ 下着、靴下、パジャマ、タオル、タオルケット、シーツ

洗濯済み 毛布、ズボン、ジーンズ、Tシャツ、ポロシャツ、Yシャツ、トレーナー
セーター、ブラウス、カーディガン、ジャンパー、オーバーコート



会費の納入について

正会員・賛助会員の皆様で会費の納入がお済みでない方は、
下記口座にお振込みをお願いいたします。
なお、るーもの会計年度は、4月1日から3月31日となっております。

ご支援の方法

正会員・賛助会員になって、子どもたちと一緒に支えて下さい。

ご寄付をお願いします。金額は問いません。

お寄せいただいたご寄付は、子どもたちのために活かされます。

ボランティアとして参加をお願いします。
シェルターにはたくさんの人の力が必要です。

「子どもセンターるーも」の研修、イベント活動、広報活動など、
可能な形でご参加ください。

会員・寄付	正会員 / 入会金 5,000円 年会費 5,000円
	賛助会員 / 個人1口 3,000円 (年間) 法人1口 10,000円 (年間)
振込先	銀行名 / きのくに信用金庫 本店営業部 口座番号 / 2629421 口座名義人 / NPO法人子どもセンターるーも
	銀行名 / ゆうちょ銀行 口座番号 / 14730-16476891 口座名義人 / 特定非営利活動法人子どもセンターるーも (トクビ)コードセンターるーも

事務局

特定非営利活動法人「子どもセンターるーも」
〒640-8044 和歌山市板屋町22
和歌山中央通りビル5階

お問い合わせ先

るーも るーも
☎ 073-425-6060
受付時間 10時～17時まで



特定非営利活動法人

子どもセンターるーも

News Letter

No.5

発行日 / 2016年4月吉日

シンポジウムの開催報告

去る、平成28年1月24日、るーもと和歌山県との共催で、
子どもセンターるーも設立3周年記念子どもの権利啓発シンポ
ジウム「子どもたちのSOS—今私たち大人にできること—」を
盛大に開催いたしました。当日は、約200名の一般市民の方々
が参加していただき、大盛況のうちに終えることができました。

シンポジウムでは、第一部としてパネルディスカッション、
第二部として和歌山県立桐蔭高校演劇部による創作演劇を行
いました。

第一部のパネルディスカッションでは、東京の子どもシェル
ターであるカリヨン子どもの家のスタッフをお呼びし、和歌山
の児童相談所の元職員、るーも理事らとともに、和歌山及び
東京の子どもシェルターの取り組みや今後の展望、課題等についてディスカッションしました。

第二部の創作演劇は、2年前の平成26年2月に行われた、子どもシェルターるーも開所記念シ
ンポジウムにおいて、桐蔭高校演劇部による創作演劇が大変好評を博したことから、今回も是非
桐蔭高校演劇部による創作演劇をお願いしたいと考え依頼したところ、桐蔭高校演劇部の皆様に
快諾をいただき、実現したものです。前回のシンポジウムでは、子どもシェルターとはどのような
ところかを皆様に知っていただくことに主眼を置いた演劇でしたが、今回は、更に進んで、子どもシェ
ルターに入居している子どもや子どもシェルタースタッフの心境や葛藤等を演じてくださいました。

今回のシンポジウムを通して、たくさんの方々に、るーもの現状やこれからの課題、展望を知っ
ていただけたと思います。ただ、るーもはまだ草創期であり、今後やっていきたいこと、やっ
ていかなければならないことがたくさんあります。それらを一つ一つ実現していくために、これから
もシンポジウム等を通して広報活動を行ってまいります。

最後に、当シンポジウムは和歌山南ロータリークラブの協賛により開催することができました。
和歌山南ロータリークラブの皆様にはこの場を借りて、深く御礼申し上げます。



シンポジウム告知リーフレット



運営委員：中山

🍓 平成27年度ボランティア養成講座を開催!!

下記の内容でボランティア養成講座を開催しました。

ボランティア養成講座

講座テーマ	講師
「子どもシェルターの必要性和役割」	土居 聡 氏 <small>和歌山県子ども・女性 障害者相談センター主幹、弁護士</small>
「子どもと発達障害について」	山本 朗 氏 <small>和歌山大学保健センター准教授、精神科医</small>
「子どもの心理とケア」	西部 美志 氏 <small>こころみカウンセリングセンター所長 臨床心理士</small>
「子どもシェルターの現場から」	NPO 法人子どもセンターののさんスタッフ
「NPO 法人子どもセンター一もスタッフ・ボランティアと受講者による座談会」	

平成28年2月20日と3月5日にボランティア養成講座が開催され、両日とも20名以上の方に参加していただきました。

今回は、より現場で活躍して頂ける人材を発掘するために、スタッフや活動されているボランティアの方々との座談会を企画し、そのためのアンケートをお願いしました。

一日目は「子どもシェルターの必要性和役割」というテーマで和歌山県子ども・女性・障害者相談センター主管の土居聡氏による講義からスタートしました。県下や他府県の子どもの虐待の実例を挙げ、最新の情報や虐待通報件数などの資料を提示し、図表を交えて解説がなされました。様々な理由で子どもシェルターを必要としている子どもの存在を明らかにし、シェルターの役割の重要性を感じさせられました。

続いて、和歌山大学保健センター准教授で精神科医の山本朗氏による「子どもと発達障害について」の講義があり、発達という観点から遺伝要因と経験、環境要因が相互作用してどのように成長していくかというプロセスをわかりやすく解説して頂き、そのいずれかの段階で支障が生じた場合に様々な生きづらさが出現してくる、とくに発達障害と呼ばれる子どもたちに特化して話してくださいました。

そこで二日目のこころみカウンセリングセンター所長の西部美志氏に臨床心理士の立場から「子どもの心理とケア」についてアタッチメントの形成などを中心にわかりやすく講義して頂きました。

「ベースは安心、安全。基本的信頼感、これは、そばにいて世話をし続けられることによって子どもに獲得されるもの。この基本的信頼感が弱いと、不信、不安にエネルギーを取られて、言葉や思考を育てることができない。信頼感、安心感が、あってはじめて赤ちゃんは、外界を探索する、真似をして、学ぶ。6から8カ月ごろに赤ちゃんは、人見知りの時期がある。これが、愛着（アタッチメント）の形成による行動。

愛着（アタッチメント）とは、特定の人と人との間に形成される愛情に基づく結びつきのこと。このアタッチメントが形成されることで、人は（心が）安定した人間関係を築くことができる。アタッチメント形成が弱いと、人との関係を回避する、嫌われていないかなどの不安から過剰な気遣いをする、など、混乱した対人関係の取り方が問題になることがある。シェルターに来る子どもの多くは、この基本的信頼感や、愛着形成が、弱い。そこを理解しながら接することが必要になる」とのお話がありました。

続いて、京都にある子どもシェルター「はるの家」のスタッフさんから、施設の概要と実際の生活内容について現場の視点で説明して頂きました。基本姿勢「安心、安全で家庭的な暮らしの提供」を大切に「子どもが話し出すまで聞かない、強制しない、子どもの存在を否定しない。」ことをベースに生活習慣が身につくように寄り添っておられると話しておられました。

受講された方の中には、色々な受け止め方があったと思われます。不安を強く感じてひいてしまった方や自信がないので自分には無理だと受け止められた方もいるかもしれません。しかし、その上で子どもたちに対して今自分は何ができるのだろうかと考えていくことが大切ではないのかと感じています。人それぞれできることは違いますが、この活動に関心を持って頂き、一人でも多くの方に広げていって頂くことが第一歩ではないかと思っています。

「相手の立場に立って行動や考え方を理解する」事はとても難しいことです。自分の育った環境のもとで確立された価値観で、相手を判断することは簡単ですが、その許容量を超えた考えや行動を受け入れ理解することは、状況によっては言うほどたやすいことではありません。日々、時として自分の価値観と葛藤して子どもたちに寄り添って下さっているスタッフの存在を知り、共に考えて悩んで子どもたちとともに成長して下さる方が一人でも増えることを期待しています。

理事：笹尾

🍓 子どもシェルター全国ネットワーク会議INあいち



平成27年10月10日(土)、11日(日)の両日にわたり、子どもシェルター全国ネットワーク会議が開催されました。この会議は、毎年1回、シェルターを運営している法人や子どもシェルター設立に向けて準備をしている団体等が集まり、情報交換や課題について話し合う場となっております。今年も、子どもセンターパオさんのある愛知県名古屋市で開催され、100名を超える参加者がありました。

会議では、全国での子どもシェルターの運営状況や課題、設立準備中の団体が抱える問題点・疑問点に関する議論をはじめ、児童福祉法改正問題に対する対応についても活発に議論されました。

理事：伊藤